

財務

連結売上高



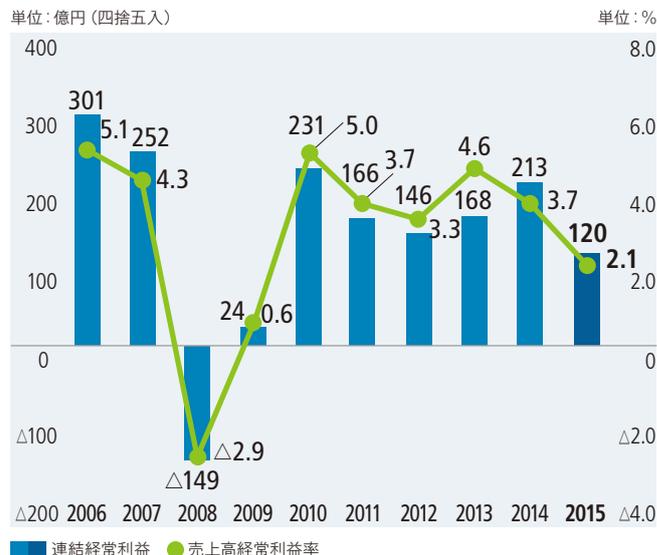
当社製品の販売価格は「地金価格+加工賃」に相当するため、売上高は地金市況の影響を受けますが、経営統合した2013年度より増収となっています。

親会社株主に帰属する当期純利益 売上高当期純利益率



2015年度は、前年度に発生したTri-Arrows Aluminum Inc.の製造委託先である北米ローガン工場での設備故障にともなう損失等に対する受取保険金を特別利益として計上しましたが、営業利益/経常利益の減少にともない減益となりました。

連結経常利益 売上高経常利益率



2015年度は、5月以降の急激な地金価格下落により棚卸評価関係が悪化したことや、8月から一貫生産を開始したUACJ (Thailand) Co., Ltd. ラヨン製造所の立ち上げコストが増加したことなどにより、減益となりました。

ROE



2014年度以降は親会社株主に帰属する当期純利益の減少にともなってROEが下落していますが、今後は中期経営計画に従って収益力を高め、計画最終年度となる2017年度には10.0%を目指します。
ROE(自己資本利益率)=親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本(期中平均)

注：4月1日から3月31日までの事業期間を年度として定めています。2015年度は、2016年3月末で終了した事業年度を表します。
2013年度より、期末日満期手形等の会計処理を変更しましたが、2012年度以前の主要な経営指標等については遡及処理前の数値を記載しています。
2012年度以前は旧古河スカイと旧住友軽金属工業の単純合計です。2013年度上半期は旧両社合算、下半期はUACJの業績数値を記載しています。

フリー・キャッシュ・フロー

単位：億円（四捨五入）



グローバルな成長にむけた先行投資を拡大しているため、フリー・キャッシュ・フローは2013年度から赤字幅が増加していますが、今後も戦略的な投資と財務体質のバランスを踏まえた経営を推進していきます。フリー・キャッシュ・フロー＝営業キャッシュ・フロー＋投資キャッシュ・フロー

設備投資額

単位：億円（四捨五入）



2014年度は、UACJ (Thailand) Co., Ltd. ラヨン製造所の建設にともない増加しました。2015年度は、引き続き同製造所の第二期ラインの立ち上げや、北米ローガン工場において鋳造能力を含めたアルミニウム板圧延能力の増強に向けた投資を実施しました。

Adjusted EBITDA

単位：億円（四捨五入）



Adjusted EBITDAは、EBITDAから地金価格の変動にともなう棚卸評価関係を控除したもので、実力ベースの収益性指標といえます。2015年度は営業利益／経常利益では減益でしたが、Adjusted EBITDAでみれば2期連続の増益となります。

Adjusted EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費－棚卸評価関係

研究開発費

単位：億円（四捨五入）

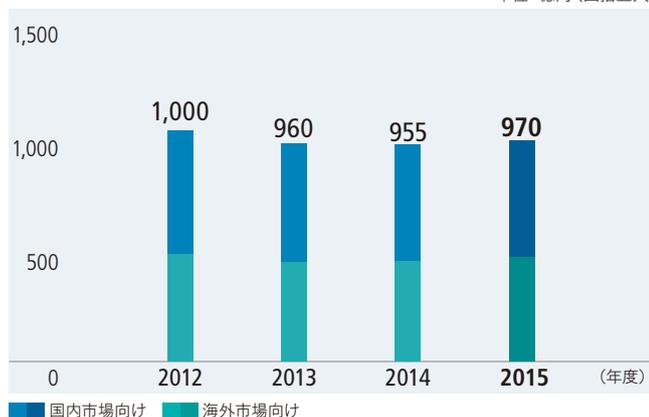


技術開発研究所では、アルミニウム圧延業界において世界トップクラスとなる約300名の研究員を擁し、製品開発や利用技術開発、材料設計・生産プロセスに関する技術開発を行っています。研究開発は中長期的な成長の基盤になるものと考え、継続的な研究開発投資を実施しています。

財務

アルミニウム板 売上数量

単位：億円（四捨五入）



アルミニウム板 品種別売上高数量

単位：億円（四捨五入）



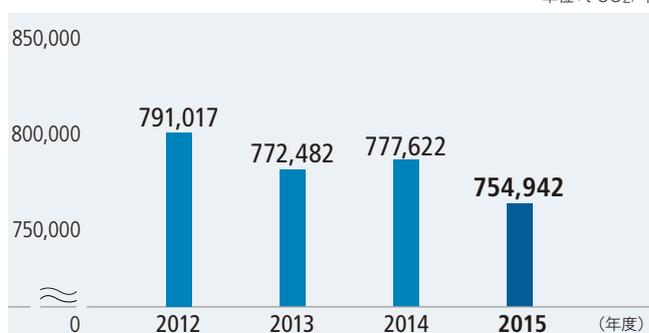
非財務

労働災害の発生状況



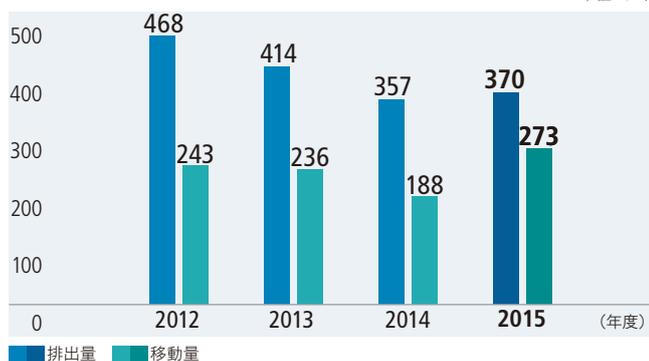
CO2排出量推移※1

単位：t-CO₂/年



PRTR物質の排出量、移動量の推移※1

（製品中の含有元素であるマンガン、クロム、ニッケル、鉛を含む） 単位：t/年



産業廃棄物量の推移※1

単位：t/年



注：4月1日から3月31日までの事業期間を年度として定めています。2015年度は、2016年3月末で終了した事業年度を表します。

2012年度の数値は旧古河スカイと旧住友軽金属工業の実績値を合算、2013年度の数値は旧2社の上半期に、UACJの下半期の実績値を合算したものです。

※1 集計範囲：UACJ(名古屋、福井、深谷、日光)、UACJカラーアルミ、UACJ押出加工名古屋(名古屋、安城)、UACJ押出加工小山、UACJ押出加工群馬、UACJ押出加工滋賀、UACJ鋳鍛、UACJ製箔(滋賀、野木、伊勢崎)、UACJ銅管